

夫で左脇のしや園を通つて裏へ廻つてみた。

硝子が嵌めてある。狭くるしそうな離れがある。

僕は結婚をしたいと思つた女は今まで Firstlover 自りない。

發狂は退行だと或學者は言つてゐる。

人間の原始に還るのだ。

若い娘が居た。

子供をアヤしてゐる。話し聲がする。愉快そうに笑つてゐる。

不圖窓際に居た、其の娘が此方を見た。

髪はホツレて色は黒い。目鼻口は整つてゐるけれど燦すぶつた感じだ。

僕は後還りした。

其の若い娘が立つて窓を開けようとしたから、

「無想庵の話してゐた、イトコの詩人だな」

僕の體はケガれてゐる。